

秦野市立渋沢中学校

研究テーマ：「非認知能力に着目した授業改善と園小中一貫教育の推進」
～ 『し・ぶ・さ・わ』の向上を目指して ～

1 実践の目的

秦野市小中学校で実施している「学びの基盤プロジェクト」（埼玉県学力・学習状況調査）の結果を分析したところ、本校生徒の学力・学習面および生活・行動面における実態が明らかになった。

まず「学力・学習面」では、全体として課題にまじめに取り組み、互いに良い影響を与え合いながら、コツコツと努力する姿がクラス全体に見られる。一方で、学習面での計画性が低く、「苦手」といった感情をうまくコントロールしながら学習への動機を高めることに課題が見られた。次に「生活・行動面」では、思いやりや他者尊重の意識が高く、他者との関わりに関心をもち、周囲の役に立ちたいと考える生徒が多い一方で、自己効力感が低く、活動に対して自信をもてない生徒が多く、成功体験を実感しにくい点が課題として挙げられた。

以上の分析結果を踏まえ、本校生徒の主な課題を特に「自信をもつことができず、感情をコントロールする力が弱いこと」と整理した。そこで、本中学校区の教育目標である「地域との協働を通し、心身ともに調和のとれ、たくましく生きる子どもの育成」と照らし合わせ、四段階で構成される非認知能力「し・ぶ・さ・わ」のループリックを作成し、課題の改善に取り組むこととした。なお、「し・ぶ・さ・わ」は、上記の教育目標との連動を意図して設定し

たものである。具体的には、「し」を「信じる力（たくましく生きる力）」、「ぶ」を「ブレない力（心身ともに調和のとれた状態）」、「さ」を「再考する力」、「わ」を「輪となってつながる力（地域との協働）」と位置付け、生徒が段階的にこれらの力を身に付けていくことを目指している。

2 実践の内容

(1) 学びの基盤プロジェクト小中合同分析・検討会

事前に小学校および中学校それぞれで調査結果の分析を行った後、9月12日に小中学校の教職員が参加し、埼玉県学力・学習状況調査の結果について合同で分析・検討を行った。各学年の分析結果を発表する中で、学年や校種を超えた共通点が見いだされた。例えば、小学校第4学年と中学校第3学年を比較すると、国語科では、複数の資料を読み取って考えることや、さまざまな情報を結び付けて自分の考えを書くことに対して抵抗感があり、無解答が多い傾向が確認された。また、数学科では、小さな成功体験の積み重ねや周囲からの承認を通して、自信を育てていく必要性が共通の課題として挙げられた。このように、子どもたちが校種を超えて同様の課題を抱えていることが明らかになった。

その後、二つのワークショップを実施した。ワークショップ1では、模造紙の上部に「良いところ」、下部に「課題」、左側

に「学習面」、右側に「生活面」を配置し、参加者がそれぞれの視点で付箋に記入した。記入された内容をKJ法により分類した結果、「前向きな姿勢」「人間性」「自信」「人間関係」「学習」「給食」「家庭」といった項目が抽出された。これらを踏まえ、次の二点を重点として子どもたちを育成していく方向性が共有された。

- ① 失敗から学ぶ体験を大切にし、自分の力で粘り強く取り組める子どもを育てること。
- ② より良い人間関係を築くことができるよう、子どもたちを継続的に支援していくこと。

ワークショップ2では、今後の小学校・小中連携・中学校において、それぞれが取り組むことができる具体的な方策について付箋に記入した。今回の分析・検討会で話し合われた内容については、コミュニティ・スクールや園小中一貫教育部長会において共有した。

(2) 研究の経緯

4月17日	令和7年度の研究について
8月25日	学びの基盤プロジェクト分析検討会
9月12日	小中合同学びの基盤プロジェクト分析検討会
9月26日	「子どもの意欲を引き出す教育活動とは」 (庄司一子先生による講演会)
10月17日	「記号接地を助け、生きた知識を生むためのブレインラーニングの理論と実践」 (今井むつみ先生による講演会)
1月9日	「生きた知識を身に付けるために ～たつじんカードゲームを通して～」 (今井むつみ先生によるオンライン講演会)
1月15日	「生きた知識を身に付けるために ～たつじんカードゲームを通して～」 (今井むつみ先生による学習アドバイス)
3月24日	令和7年度のまとめ



3 実践の成果と課題

1学期末と2学期末に生徒アンケートを実施したところ、2学期には意欲的な回答が多く見られた。これは、授業改善の取組に加え、学校行事などにおいて生徒が主体的に取り組む、活躍する場が多くあったことも影響していると考えられる。同時に授業実践においても、生徒の行動や振り返りの記述から意識や態度に前向きな変容を見取ることができた。

夏に実施された園小中合同研修会において、園小中ともに非認知能力の研究を推進していることが分かった。渋沢中学校区は園小中一貫教育が盛んに行われていることから、今後は非認知能力の育成についても共同研究していきたいと考えている。

4 今後の展開

今後も小学校やこども園とも協働し、学びの基盤プロジェクトの分析をもとにしながら、生徒の非認知能力を高め、学力向上が図れるように、研究を続けていきたい。